

古川顕教授略歴・著作目録

雑誌名	甲南経済学論集
巻	53
号	3・4
ページ	vii-xv
発行年	2013-03-25
URL	http://doi.org/10.14990/00001467

古川顯教授 略歴・著作目録

古川顕教授略歴

略 歴

- 1942年（昭和17年）6月11日 大阪府貝塚市に生まれる
- 1966年（昭和41年）3月 京都大学経済学部卒業
- 1966年（昭和41年）4月 株式会社三和銀行入行
- 1971年（昭和46年）3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程卒業
- 1973年（昭和48年）2月 株式会社三和銀行退職
- 1973年（昭和48年）4月 神戸学院大学経済学部助手（昭和49年3月まで）
- 1974年（昭和49年）4月 神戸学院大学経済学部講師（昭和51年3月まで）
- 1976年（昭和51年）4月 神戸学院大学経済学部助教授（昭和55年3月まで）
- 1976年（昭和51年）11月 京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
- 1980年（昭和55年）4月 大阪大学教養部助教授（昭和61年2月まで）
- 1985年（昭和60年）4月 エコノミスト賞受賞
- 1986年（昭和61年）3月 経済学博士（大阪大学）
- 1986年（昭和61年）4月 大阪大学教養部教授（平成元年3月まで）
- 1987年（昭和62年）4月 文部省在外研究員（昭和63年1月まで英国ロンドン大学 LSE）
- 1989年（平成元年）4月 関西学院大学経済学部教授（平成6年3月まで）
- 1994年（平成6年）4月 京都大学経済学部教授（平成9年3月まで）
- 1997年（平成9年）4月 京都大学大学院経済学研究科教授（平成18年3月まで）

2001年（平成13年）4月 京都大学評議員（平成15年3月まで）
2006年（平成18年）4月 京都大学名誉教授
2006年（平成18年）4月 甲南大学経済学部特任教授
2013年（平成25年）3月 甲南大学退職

（注）他大学・他大学院の非常勤講師（集中講義を含む）については非常に多数あるため省略する。

古川顕教授著作目録

著 書

『現代日本の金融分析—金融政策の理論と実証』東洋経済新報社，1985年10月

『日本銀行』講談社，1989年9月

『テキストブック 現代の金融』東洋経済新報社，1999年4月

『テキストブック 現代の金融』（第2版）東洋経済新報社，2002年11月

『旅の途上で』ナカニシヤ出版 2010年10月

『R. G. ホートレーの経済学』ナカニシヤ出版，2012年5月

編 著

『日本の金融市場と政策』昭和堂，1983年3月

『現代日本の金融政策』（共編）東洋経済新報社，1992年4月

著書分担執筆

『経済原論』春秋社 第11章第3節，1975年6月

『金融概論』有斐閣 第2章，第3章補論，第10章，1985年1月

『マクロエコノミックス』昭和堂 第5章，1986年6月

『銀行論』有斐閣 第3章，1986年12月

『金融』有斐閣 第6章・第7章，1987年4月

『金融』（新版）有斐閣 第6章・第7章，1993年2月

『金融システム論』御茶の水書房，第7章，1994年7月

『政策研究2002』九州大学出版会，2002年12月

New Perspectives on Policy Planning and Analysis 2002 Kyushu University Press,
edited by Reserch Project Group for Policy Evaluation in Kyushu University,
2003

監 訳

『21世紀銀行業の競争』東洋経済新報社，2000年11月

論 文

「資産選択と消費行動」『経済論叢』第113巻5・6号1973年5月

「個人金融資産多様化に関する一考察」『金融ジャーナル』第14巻7号，1973年6月

「ケインズ流動性選好理論の再検討—資産選択論的視点からの一考察」『神戸学院経済学論集』第5巻2号，1973年9月

「金融資産市場の一般均衡分析—金融政策の効果に関して—（その1）」『神戸学院経済学論集』第6巻1号，1974年6月

「金融資産市場の一般均衡分析—金融政策の効果に関して—（その2）」『神戸学院経済学論集』第6巻2号，1974年9月

「信用割当と銀行行動」『経済論叢』第115巻1・2号，1975年1月

「信用割当再論」『神戸学院経済学論集』第7巻2号，1975年9月

「戦後わが国金融行政の一断面」『神戸学院経済学論集』第7巻4号，1976年3月

「マネーサプライについて」『経済月報』（京都銀行）No 220, 1976年8月

「クラウドディング・アウトについて」『神戸学院経済学論集』第8巻3号，1976年12月

「金利規制と窓口規制」『金融学会報告』第43巻，1977年5月

「わが国銀行貸出金利の計測」『神戸学院経済学論集』第9巻2・3号，1977

年12月

「わが国銀行貸出金利に関する実証分析」『金融学会報告』第46巻，1978年9月

「不均衡分析と日本の貸出市場」『季刊理論経済学』第30巻2号，1979年8月
「戦後日本の金融政策—窓口規制の有効性を中心に—」『神戸学院経済学論集』第11巻2号，1979年9月

窓口規制の有効性と銀行準備の需要関数」『東洋経済；近代経済学シリーズ』No 547，1980年10月

「窓口規制の有効性—堀内・江口論争をめぐる—」『経済研究』第32巻1号，1981年1月

「窓口規制の有効性—理論と計測」『金融学会報告』第51巻，1981年5月

「日本銀行の貸出供給ルール」『季刊現代経済』第45号，1981年11月

「日本銀行貸出の分析」『金融学会報告』第55巻，1982年10月

「金融構造の変化と金融政策の有効性」『経済セミナー』，1983年3月号

「マネーマーケットの発達と窓口指導の有効性」『大阪大学経済学』第32巻4号，1983年3月

「金融政策と金利—フィッシャー効果の検証を中心に—」『大阪大学教養部研究集録』第32号，1983年12月

「マネタリー・アグリゲイト，クレジット・アグリゲイトと経済活動—因果関係テストを中心に—」『大阪大学教養部研究集録』第33号，1985年1月

「いまこそ小口預金金利の自由化を」『エコノミスト』1987年4月8日号

「シティを変えたビッグ・バンの衝撃」『エコノミスト』1987年12月8日号

「金利自由化と国民生活」『経済セミナー』1989年10月号

「預金金利自由化の効果」『経済学論究』第43巻第3号，1989年10月

「金融自由化・国際化の中の新しい課題」『エコノミスト』1989年12月26日号

「金融自由化の進展と金融政策のあり方」『金融ジャーナル』第31巻第4号，

1990年4月

「危険はらむ金融機関の不動産融資」『エコノミスト』1990年5月29日号
「銀行流動性」と市場金利の決定」『経済学論究』第45巻第4号, 1992年1月

「金融市場と金利—金融市場における金利決定のメカニズム」『住宅金融月報』
No 486, 1992年7月

「金融市場と金利—長期金利の決定メカニズムをめぐって」『住宅金融月報』
No 487, 1992年8月

「金融市場と金利—金利自由化の影響と金融政策」『住宅金融月報』No 488
1992年9月

「中央銀行の貸出政策—理論的研究のサーベイ—」(共著)『経済学論究』第
46巻第3号, 1992年10月

「金融自由化と国民生活」『国民生活』第23巻第11号, 1993年11月

「金融政策とクレジット・ビュー」『金融経済研究』第9号, 1995年7月

The Determination of the Call Rate in Japan, *The Kyoto University Economic Review*, Vol. LXV, No. 1, April, 1995

「バブル経済の崩壊と物価下落」『フィナンシャル・レビュー』第43号, 1997
年11月

「ゼロ金利政策はいつまで続くのか」『経済セミナー』2000年7月号

「信用の経済学—R. G. ホートレーを中心に—」『経済論叢』第166巻第5・6
号2000年11・12月

「日銀の過ち；ゼロ金利下での量的緩和には効果がない」『エコノミスト』
2001年5月15日号

「日本の地価と設備投資—フィナンシャル・アクセラレータ仮説の検証— (1)」
(共著)『経済論叢』第168巻第5・6号, 2001年11・12月

「日本の地価と設備投資—フィナンシャル・アクセラレータ仮説の検証— (2)」

古川顕教授 略歴・著作目録

- (共著)『経済論叢』第169巻第1号, 2002年1月
「金融政策の波及メカニズム—ホートレー仮説対ケインズ仮説をめぐって—」
(共著)『経済論叢』第169巻第3号, 2002年3月
「銀行の貸し渋り行動 (1)」(共著)『経済論叢』第170巻第1号, 2002年7月
「銀行の貸し渋り行動 (2)」(共著)『経済論叢』第170巻第3号, 2002年9月
「アービング・フィッシャーの景気循環論 (1)」『経済論叢』第175巻第4号,
2005年4月
「アービング・フィッシャーの景気循環論 (2)」『経済論叢』第175巻第5・6
号, 2005年5・6月
「アービング・フィッシャーの景気循環論 (3)」『経済論叢』第176巻第1号,
2005年7月
「量的緩和政策の失敗」*ACADEMIA* No. 98, 2006年3月
「マネタリーベース, 銀行貸出およびマネーサプライの関係について—時系
列分析による検証—」(共著)『甲南経済学論集』第47巻第1号, 2006年6
月
「R. G. ホートレーの金融・財政政策論 (1)」『経済論叢』第178巻第5・6号,
2006年11・12月
「日本の銀行の貸出行動分析—1980年代以降を対象に—」(共著)『甲南経済
学論集』第47巻第3号, 2006年12月
「R. G. ホートレーの金融・財政政策論 (2)」『経済論叢』第179巻第1号,
2007年1月
「リレーションシップ・レンディング, ロック・イン効果と銀行のリファイ
ナンス行動」(共著)『甲南経済学論集』第48巻第1号, 2007年6月
「日本経済と世界金融危機」*ACADEMIA* NO. 116, 2009年6月
「R. G. ホートレーと国際金本位制度」『甲南経済学論集』第50巻第1・2・3・
4号, 2010年3月

「J. S. ミルの貨幣・信用理論」『甲南経済学論集』第50巻第1・2号, 2012年1月

「景気循環のプロシクリカリティ」『甲南経済学論集』第53巻第1・2号, 2013年2月

「H. D. マクラウドの信用理論」『産研論集』（関西学院大学産業研究所）第39号, 2013年3月

書 評

堀内昭義著『日本の金融政策—金融メカニズムの実証分析』『経済学論集』（東京大学）第47巻1号, 1981年4月

幸村千佳良『日本経済と金融政策』『季刊理論経済学』第30巻1号, 1987年3月

岩田規久男『金融政策の経済学—日銀理論の検証』『金融経済研究』第7号, 1994年7月

翁 邦雄『金融政策—中央銀行の視点と選択』『金融経済研究』第7号, 1994年7月

一ノ瀬 篤『固定相場制期の日本銀行金融政策』『金融経済研究』第8号, 1995年5月

寺地孝之『近代金融システム論』『書斎の窓』, 1998年6月号

三木谷良一・石垣健一編『中央銀行の独立性』『金融経済研究』第17号, 2001年3月

辞 書

内部金融・外部金融『新版世界大百科事典』平凡社 1984年11月

直接金融・間接金融 同

戦後日本の金融制度『金融事典』東洋経済新報社 1994年2月

調査研究報告書

共編『現代日本の金融システム』金融システム研究会，1995年8月

共編『現代日本の金融システム—郵便貯金の機能と役割—』

金融システム研究会，1996年10月

共編『現代日本の金融システム—公的金融と金融政策—』

金融システム研究会，1997年6月

共編『現代日本の金融システム—公的金融と金融政策—』

金融システム研究会，1998年6月

共編『現代日本の金融システム—公的金融と金融構造—』

金融システム研究会，1999年8月

共編『現代日本の金融システム—金融再編成下の新課題と実証—』

金融システム研究会，2000年6月

共編『現代日本の金融システム—信用経済の分析と実証—』

金融システム研究会，2001年6月

共編『現代日本の金融システム—金融再編成下の諸問題とその分析—』

金融システム研究会，2002年6月

共編『現代日本の金融システム—金融機関行動と公的支援—』

金融システム研究会，2003年6月

共編『現代日本の金融システム—公的金融と銀行・企業・家計—』

金融システム研究会，2004年6月

共編『現代日本の金融システム—金融リテールの経済分析』

金融システム研究会，2005年7月

(注) その他の報告書，新聞記事，エッセイ等については省略する。